

# One day, ワンデー ワンモーメント one moment

2 枚目

## 歌声

コンサートを、たびたび仕事で撮影する。コンサート本番であれ稽古場であれ、近くで撮影していると、その人の生み出す音の力が、まるでシャワーのように自分とカメラの上に降り注いでいると感じることがある。歌声の粒子。演奏の音の粒子。それはまるで生命そのもののエネルギーのよう、といったら大げさだろうか。

この写真は加藤登紀子さんの「ほろ酔いコンサート」からの一枚。会場いっぱいのお客様を抱きしめるように、大きく腕をひろげた登紀子さん。登紀子さんの発する歌のエネルギーが、その空間に写っているような気がして、感じたままに撮った一枚です。

## フォトエッセイ

写真・文：ヒダキトモコ

Photo・Text：Tomoko Hidaki

## ヒダキトモコ

写真家。日本舞台写真家協会会員。

東京都出身、米国で幼少期を過ごす。慶應義塾大学法学部卒業。会社員を経て写真家に転身。音楽誌・経済誌等の表紙・グラビア、各種舞台・音楽祭のオフィシャルカメラマン。ステージ写真、ジャケット写真、写真集等。官公庁や企業の撮影も多数。撮影スタンスは自然体、人の内面的魅力やイキイキとした写真表現を大切にしている。

<http://hidaki.weebly.com>





## 第12回 朝倉市連合音楽会

2017年12月16日 朝倉市総合市民センター（ビーポート甘木）  
朝倉市内の4保育園と、全小・中学校、2高等学校の22校が参加。

2017年7月に福岡県と大分県を襲った九州北部豪雨。これまでの観測記録を超える猛烈な雨と河川の氾濫により、多くの犠牲者を出しました。特に福岡県朝倉市の杷木地区は大きな被害を受け、『プーケ』編集部が訪れた同年12月時点においても、4校ある小学校のうち2校は校舎が使えず、他校の校庭に建てられた仮設校舎で勉強している状況でした。そのような中、朝倉市は伝統ある連合音楽会を開催しました。本レポートでは、子どもたちが過酷な状況にも負けず、音楽と関わっている様子をお伝えします。

### Message

#### 実行委員長の徳永幸子先生（朝倉市立金川小学校 校長）

市町村合併前の甘木市時代から数えると通算66回目になるこの音楽会は、戦後すぐの何もない時代に、子どもたちへの「クリスマスプレゼント」として、地元の高校の先生による呼びかけで始まりました。それから半世紀以上、異校種の連携を通して子どもたちの心を豊かにしたいという思いで受け継がれてきました。スポットライトを浴びて気持ちよく歌うことは、子どもたちにとって貴重な経験になります。今回も災害による制約が多い中でがんばってきた子どもたちに、音楽で楽しい思い出をつくってもらえたらという気持ちで準備をしました。



## バラエティ豊かな合唱

### 息の合った合奏



トップバッターは真愛保育園の園児たち。『ありがとうの花』を歌うかわいらしい姿に満場の拍手が起こった



保護者や地域の皆さんが続々と集まり、開場時には長い列

朝倉高等学校音楽部による合唱。  
サンタクロースの帽子をかぶった生徒たちが  
会場を盛り上げた



華やかで雅な箏曲の演奏を披露した甘木中学校

## 思い出を胸に新たな出発

特に被害の大きかった杷木地区の志波小学校、久喜宮小学校、松末小学校、杷木小学校の4校は、今年4月に開校する『新設 杷木小学校』へ統合されます。※各校はそれぞれの思いを込めて校歌と合唱曲を演奏しました。

※統合は災害以前から予定されていました。



全校児童による  
温かいハーモニーを  
響かせた志波小学校



澄んだ歌声で歌詞を  
大切に歌う久喜宮小学校

志波小学校の児童たちは、崖崩れで今は立ち入ることのできない校舎や校庭での楽しい思い出を、校歌のメロディーにのせて一人一人大きな声で発表しました。久喜宮小学校の演奏は『変わらないもの』。歌詞に出てくる「あなた」は「校舎」、「きみ」は「友達」をイメージしながら練習したそうです。

松末小学校は、校歌と児童が考えた歌詞をつなげて同校の山下玲子先生が編曲された『松末小学校 校歌～いつも心に～』を演奏。「わたしたちのふるさと 松末心の中に～」というフレーズを丁寧に、思いを込めて歌い上げました。杷木小学校は、地域の四季折々の美しい自然を思い浮かべながら『ふるさとメドレー』を歌い、146年の歴史を閉じるにあたり学校への感謝のメッセージを述べました。



思い出をしっかりと心に刻む  
松末小学校の児童と先生がた



ふるさとへの思いを  
込めて歌った杷木小学校

そして、統合される学校の児童たちがいっしょに舞台上上がった『新設 杷木小学校 校歌』の発表。新しい学校への期待を込めながら「ともに励まし 肩くんで みんなでつくる 杷木小学校」と元気いっぱいの歌声を聴かせてくれました。新たな歴史をつくっていく子どもたちの姿はけなげであり、頼もしくもありました。

### Interview

#### 田中玲子先生（福岡県立朝倉高等学校 教諭）

『新設 杷木小学校 校歌』を作曲された田中先生。どのような思いを込めてつくられたのか、お話を伺いました。



学校は子どもたちの人生の一部であり、閉校してもぎっと心の中に残り続けます。新しい校歌をつくる前に、4校の楽譜を取り寄せて歌ってみました。こういう校歌で育ってきた子どもたちなんだと、いろいろな顔を思い浮かべながら。実は以前にも、勤めていた学校の統廃合を経験したことがあります。閉校と開校はものすごいエネルギーを必要とするんですよ。閉校する寂しさ、開校にあたり一からつくり上げる大変さ。子どもたちは、新しい学校への期待、新しい友達との出会いにどきどきしながら、一生懸命に校歌を練習することでしょう。だから、学校が変わっても、感謝の気持ちと新たな一歩を踏み出す勇気をもてるようにという願いを込めて作曲しました。

今回の取材では、田中志穂先生（志波小学校）、古後光咲先生（久喜宮小学校）、山下玲子先生（松末小学校）、小嶋かおり先生（杷木小学校）にもご協力いただきました。あらためて感謝申し上げます。



の校長先生  
講話



本連載では、学校長を務められた先生が、これまでに学校で子どもたちに語り届けた講話をご紹介します。

第2回にご登場いただく大槻秀一先生には、教員生活を通して大切に届け続けた3つの考えがありました。子どもたちの豊かな成長を願いながら、学校の中のさまざまな場で伝えてきた、その思いをつづっていただきました。

大槻秀一（おおつき・しゅういち）  
千葉県吹奏楽連盟 副理事長  
日本大学芸術学部 非常勤講師

第2回 大槻秀一 先生（船橋市立塚田小学校 第25代校長）

「心豊かな子ども」の育成を願って  
「挨拶のできる学校」、「歌声の響く学校」、  
「お花がいっぱいの学校」にしよう！

### 挨拶のできる学校

ある街中で「挨拶は心と心の握手だよ」という標語を見かけたことがあります。さりげなく書かれた標語でしたが、私にはとても印象に残り、全校朝会等で子どもたちに話をするようになりました。「挨拶ができることはお互いの心と心が開かれることで、心と心の握手ができるのですね」と説き、「挨拶をする時は心を込めてお互いに挨拶をしましょう。そして『挨拶のできる学校』にしましょう」が、私の口癖になりました。高学年の児童には、「挨拶は社会に出てから仕事を行う上での基本になります。また、出会いのきっかけをつくります」と話をしました。私は「挨拶は心と心の握手だよ」の思いを今後も大切にしていきます。

### 歌声の響く学校

私は塚田小学校に平成4・5年と2年間音楽専科・研究主任として在籍していました。当時、音楽教育推進事業団「21世紀の会」及び船橋市教育委員会から音楽科研究指定を受けて全国公開に臨み、表現活動を中心に「心豊かな子ども」の育成を願って研究を進めました。その頃から塚田小学校は「歌声の響く学校」であり、児童会主催の「ドレミの集い」や音楽科主催の「校内音楽発表会」で歌声を響かせていました。校長として二度目の赴任をした時にも、これらの行事は継続して実施されており、大変懐かしく嬉しく思いました。音楽の行事の際に子どもたちには「大きな声で歌を歌えることは挨拶と同じで、心が開かれているから歌が歌えるのですよ」と話をしました。「塚田小学校の『歌声の響く学校』は、一人一人の開かれた素直な心で結ばれているのです。この気持ちを大切に、皆さん一緒に歌を歌いましょう」と語りかけました。



船橋市立塚田小学校の「音楽発表会」(2016年11月28日)

### お花がいっぱいの学校

塚田小学校には校庭の真ん中に立派な銀杏の木があります。春夏秋冬、子どもたちは銀杏の木の四季の変化を感じながら生活をしています。特に、秋から冬にかけての紅葉から落葉は、黄色一色になり大変すばらしい景色になります。また、銀杏の木の他に、四季折々のお花がいっぱい植えられています。児童会やPTAの活動で年間を通してお花が植えられており、教職員と共にお花の手入れを行っています。朝会等の講話では、「『このお花はきれいだなあ、美しいなあと感じる心』、『お花を育てる優しい心』を大切にしましょう。そして、皆さんと一緒に『お花がいっぱいの学校』にしましょう」と声掛けを行いました。

＊

このように私は、子どもたちに「挨拶のできる学校」、「歌声の響く学校」、「お花がいっぱいの学校」について常に語りかけてきました。これからも塚田小学校の子どもたちが「心豊かな子ども」に成長していくことを願いながら本稿を閉じさせていただきます。



## 日本めぐり

本連載では、日本各地で文化や芸術を支えているかたがたを取材します。  
第2回は、栃木県宇都宮市、大谷資料館を訪ね、館長・鈴木洋夫さんにお話を伺いました。

## 第2回 栃木県 宇都宮市

## 鈴木洋夫 大谷資料館 館長

「石の里」と呼ばれる栃木県宇都宮市大谷町<sup>おおやまち</sup>は、大谷石<sup>おひやいし</sup>に育まれながら発展してきました。「大谷資料館」の展示施設の一つである「大谷地下探掘場跡」は深さ30メートル（最深は60メートル）、広さは2万平方メートルにもおよび、1979年から公開されています。歴史的な意義をもちつつ、幻想的な空間であるこの場所は、近年ますます栃木県の観光名所としての人氣が高まってきています。  
風の冷たい晴れた冬の午後、館長の鈴木洋夫さん自ら大谷資料館を案内してくださいました。

## 地下30メートルの世界

——「大谷石」とはどんな石なのでしょうか？  
「中に空気層があるため火も熱も通さない、柔らかくて軽い石です。字を書いたり加工したりしやすいので、看板、外壁や蔵、塀など、さまざまな用途で使われます。ここでは探掘場を当時のままに残しているんですよ【写真①】」

「ないと思います。ここは自然にできた洞窟ではなく、人間の手がつくった空間ですから。お客様からは『石を売って儲けて、見せて儲けて』と言われることもあります（笑）。昨年は『COOL JAPAN AWARD 2017』をいただきました」  
——テレビや映画のロケ場所としても多く使われていますね。  
「クリスマス・シーズンだけ公開している『教会ゾーン』は、普段は非公開で何もないスペースです。映画やドラマの撮影に使われることが多く、結婚式を行うときだけこのようにします【写真④】」  
——館内は照明が美しく、たくさんの展示物が置かれていますね。

「展示物は撮影やイベントで使ったものを置いていってもらったものばかり。ライトの当て方は勉強しているのですが、すべて私がやっていますが、『教会ゾーン』は業者さんに頼みました。ただ、私のこだわりもあり、左右壁際のライトと、バージンロードのライトなど、修正していただいた部分もあります」  
——大きな石の舞台が見えてきました。

「ここではコンサートをやる人が多いですが、この舞台をいちばん使うのは遠足や修学旅行で来た小学生です【写真⑤】。合唱したり、リコーダーを吹いたり。担任の先生が『いつもより上手』って喜んでくれます。あちらは最初に大谷石を採掘し始めた場所で、真夏は外の熱い空気とこちらの冷たい空気がぶつかり、空気がかすんで幻想的な光景が見られます。映画の燃え盛る炎のシーンでも使われましたよ【写真⑥】」

——火に強い大谷石だからこそ可能なロケですね。撮影には鈴木さん自ら立ち会われるのですか？

「はい、毎回立ち会います。3日間徹夜で行われた撮影にずっと立ち会ったときは、さすがにつらかったです（笑）」



鈴木洋夫（すずき・ひろお）

宮城県仙台市出身。宇都宮観光コンベンション協会を定年退職後、大谷資料館館長を務め現在に至る。前職では宇都宮フィルムコミッション（映画・TVなどのロケーション撮影のサポート）の業務に長年携わった。

—— 広くて神秘的ですね！ところで、本日の館内の気温は2度ですね。

「壁面を」ご覧ください。今のうちに寒い冬の時期は、『石の華』<sup>はな</sup>と言って、大谷石に含まれる塩分が壁面から出てくるんですよ【写真②】。夏場は消えてしまうから今しか見ることができません。なめるとしょっぱいですよ」

—— 指で簡単に取れますね。……ほんとうですね、しょっぱいです。

「大谷石の採掘が本格的に始められた江戸時代中期から昭和34年頃まではツルハシという道具を使った手掘りでした。その頃は、切り取って掘り出した80キロの石を背負子<sup>しょいこ</sup>を使い、一人で運んでいたんです。その後は機械化が進み、道具も発展していきます。この場所は昭和20年、終戦の年の3月から8月15日まで軍需工場として使われていました。例えば、あれは日本軍がトンネルを造るのに仕掛けたダイナマイトの爆発で落ちた石です【写真③】」

—— 大谷資料館のような場所は日本で他にもありますか？

## お客様の8割が若い人

—— 鈴木さんは、いつから館長を務めているのですか？

「4年前、前職の宇都宮観光コンベンション協会を定年退職してからです。観光協会の仕事で大谷資料館ともつながりがあり館長として呼んでいただきました。旅行関係の会社で働いた時期もあるので『旅行・観光』『役所』『撮影』を知る私には適職だなあと感じます（笑）」

—— 5年前に再オープンされたということですが、お客様は増えていますか？

「ええ、若い人を中心に来館者が増えています。今では大谷資料館のお客様の8割は若い人です。また、この施設に年齢制限はありませんが、お年寄りが観覧しにくいという指摘を受けることはあります。ですので、歩いて観覧するのが難しいかたには、平日に限り別料金で、車で館内をご案内することも行っています」

—— 一般的に『資料館』という場所で、若いお客様が多いというのは、珍しいですよね？

「『資料館』という名前からは、あのような館内を想像していなかったというかたが多いですね。もつと館内がイメージできる名前に変えないかと言われることもあります。大谷石の歴史を見せる重要な施設なので『資料館』という名前を変えようとは思わないんです」

—— 鈴木さんはどんなとき、館長としてやりがいを感じますか？  
「探掘場跡の映像を撮ってもらって、それを見たお客様が来てくれて、実際に見て感動してもらえるのはとてもうれしいです。この探掘場跡自体は変えようがなく、スペースを広げることもできません。お客様が感動してくれる見せ方をより研究し、工夫していきたいと思っています」



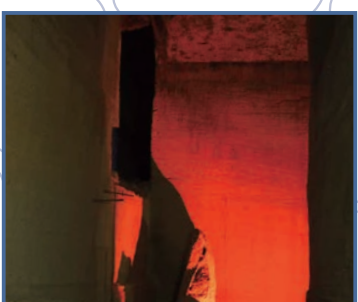
第二次世界大戦の頃には地下倉庫、軍需工場、戦後には政府米の貯蔵庫として存在していた



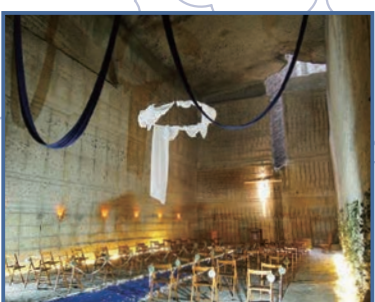
【写真①】地下に広がる大谷石の探掘場



【写真②】石の華



【写真③】ダイナマイトで落ちた石。上のトンネルは石切場につながっている



【写真④】「教会ゾーン」。天上から差し込む光が美しい



【写真⑤】石の舞台



【写真⑥】大谷石掘り始めの場所



楽譜を読むのが苦手な子どもが多くて……。

Information

どうしたら楽譜の読み方を楽しく教えられるかなあ……。



そんなときは、このデジタル教材を使えば、  
楽しく学びながら楽譜を読むトレーニングができるのじゃ！

Music Edutainment Application

楽譜が読めるようになる！

Vol.1 ～リズムトレーニング～



楽譜を読むことが難しくて音楽が苦手になってしまう子どもたち。また、限られた授業時間内で子どもたちに楽譜の読み方を効率的に指導したいと感じている先生がた。そのような多くの声を受けて、このデジタル教材は誕生しました。Vol.1では、特に難しいという声が多かった「リズム」の読み方をトレーニングすることに特化。小学校から高等学校まで、幅広く活用できます。



「一定の拍を打つ」「楽譜を読む」  
これらを繰り返すことで、着実に  
読譜力の基礎が身に付きます！



約500種類の豊富な譜例を収録！  
限られた授業時間の中で効率的に  
トレーニングができます！



モニターなどに映しながらの  
一斉授業でも、タブレット端末での  
個別学習でも使えます！



楽しみながら楽譜が読めるようになる、まさに“Edutainment”な授業を実現できる  
デジタル教材です！商品の詳細や活用方法については、こちらをご覧ください。



[http://www.kyogei.co.jp/digitaltextbook/gakufu\\_vol1/](http://www.kyogei.co.jp/digitaltextbook/gakufu_vol1/)

エッセイ

## いまを歩く

文：吉田純子  
(朝日新聞編集委員)  
Text : Junko Yoshida

### 追うべきは「その後」

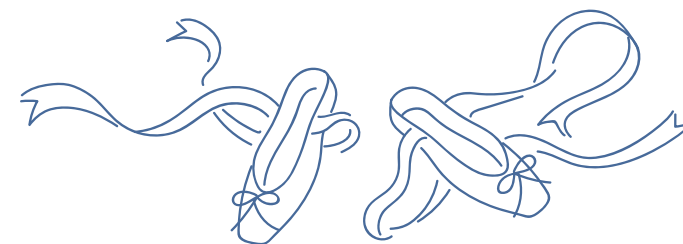
若手ダンサーの登竜門、ローザンヌ国際バレエコンクールが2月に開かれ、日本人2人がファイナルに残った。快挙といえば快挙かもしれない。とはいえ、このコンクールに対するここ数年の日本メディアの過剰な盛り上がりぶりが、どうしても気にかかっている。

なぜ過剰かという点、ことローザンヌというコンクールにおいては、実は順位はさほどの意味がないからだ。

バレエは、西欧人の身体を前提にした「選ばれし人々」が導く芸術だ。努力と才能だけでは決して輝くことはできない。たとえばロシアのバレエ学校では、祖父母の代まで肥満体の親族がいないかを事前にチェックされる。遺伝で太る可能性があれば、その段階でその人の「バレエへのパスポート」は奪われてしまうのだ。

ゆえに、非西欧の肉体の持ち主が、最初から同じスタートラインに立てないのは当然のこと。しかし、異文化との出会いによる新陳代謝なくして伝統の継承はない。だからこそ、バレエ界は新しい才能にチャンスを与えようとする。各国の芸術監督は、自身のバレエ団が求める個性を探するため、コンクールに足を運ぶ。いわば「登竜門」と「見本市」を兼ねた機会なのだ。

入賞した日から、ダンサーたちには自らのタイムリミットを見据える日々が始まる。内面の成熟と肉体の衰えを、そのつど冷静に分析しながら、芸術の深淵へと一歩、また一歩と足を踏み入れてゆく。メディアが真に追うべきは、本当はコンクールの「その後」なのではないか、と思うのだ。





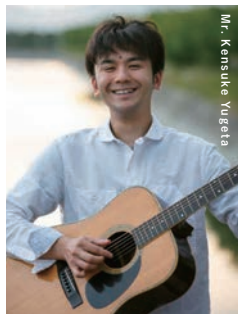


# World Report

## 南アフリカに移動図書館車を届けよう！

### “図書館で会いましょう”プロジェクト

♪ ようこそ！ 本のある広場へ 扉をあければ  
たくさんの夢が あなたを待っている



弓削田健介さん

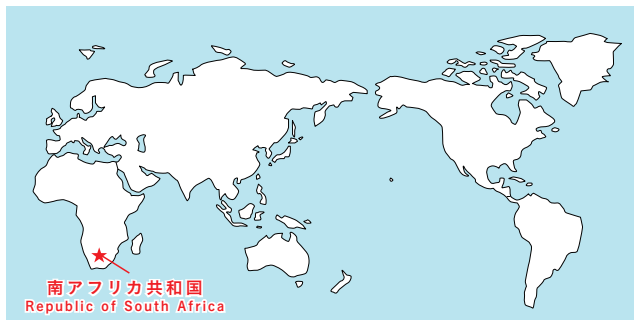
一度耳にすると思わず口ずさみたくなる図書館応援ソング『図書館で会いましょう』。作詞・作曲したのは、図書館をこよなく愛する作曲家、弓削田健介さんです。お母様が学校図書館の司書教諭だったことから、ご自身も幼い頃から図書館に親しみ、学生時代には地元の図書館でアルバイトをしていたこともあるそうです。

そんな弓削田さんの発案で始まった“図書館で会いましょう”プロジェクトは、NPO法人SAPESI-Japan（サペシ・ジャパン）との連携により、南アフリカの子どもたちへ移動図書館車を届ける活動につながりました。



### 南アフリカってどんな国？

アフリカ大陸の最南端。年間を通して晴天が多いため「太陽の国」という別名をもち、美しい自然に恵まれている。その一方で、貧富の差が大きく、都市部以外の多くの地域では教育環境の整備など課題が残る。



Basic Data  
人口：約5,590万人  
面積：122万平方キロメートル（日本の約3.2倍）  
首都：プレトリア  
言語：英語、アフリカーンス語、ズールー語など11の公用語  
（外務省ホームページより）

スポーツはサッカーやラグビーが人気！



ネルソン・マンデラ元大統領の像



山あい広がるワイン用のぶどう畑



沿岸部に生息するケープペンギン

### “図書館で会いましょう”プロジェクトの概要

図書館や本をテーマにした楽しい歌をまとめた作品集『図書館で会いましょう』を制作。その収益の一部をチャリティーとしてSAPESI-Japanに寄付し、南アフリカに移動図書館車を届ける活動に役立てます。



プロジェクト特設ページ  
<http://yugemusic.com/tosyo/>

図書館応援ソング『図書館で会いましょう』の振り付け動画や作品集収録曲をご試聴いただけます。



弓削田健介作品集『図書館で会いましょう』  
A4判／52ページ／定価（本体1,800円＋消費税）  
ISBN978-4-87788-799-5 JAN4520681220451

### NPO法人SAPESI-Japan【南アフリカ初等教育支援の会】

2008年に設立され、南アフリカの初等教育支援や識字率の向上を目的として、移動図書館車や児童書の寄贈活動を行う。日本各地の自治体から使われなくなった移動図書館車を譲り受け、車両を整備し、南アフリカへ送っている。



### Event 1

### 移動図書館車 出港式（2017年11月28日）

3台の中古移動図書館車が日本から出港することが決まり、南アフリカ共和国大使館にて、出港セレモニーが行われました。“図書館で会いましょう”プロジェクトからは、うち1台（神戸市立図書館より譲渡）を送り出し、ムブマランガ州教育庁へ届けられることになりました。



トゥラニ・ロモ  
駐日特命全権大使



いざ出発！

出港式は、駐日南アフリカ共和国大使のスピーチから始まり、外務省や各協力団体からの挨拶、実際に図書館車に乗務していた職員によるエピソードの紹介などが行われました。また、弓削田さんからの歌のプレゼントもあり、会場は温かい雰囲気になりました。

### 神戸市立図書館からのメッセージ

日本での定年を迎えた「みどり4号」は、このたび南アフリカ共和国で再雇用されることとなりました。2002年にデビューして15年、暑い日も雪の降る日も地域を巡回しました。最後の年に乗務していた2名の司書は、「みどり4号」の製作にも携わったベテランと、前年採用されたばかりの新人でした。「みどり4号」の誕生と別れに立ち会い、強い感慨を覚えております。南アフリカで本を載せて走る姿を想像するだけで司書として大変うれしく、胸が高鳴ります。今後の「みどり4号」の活躍に期待しています。



弓削田さんと「みどり4号」

日本を旅立った移動図書館車は、メンテナンスを経て、今年の夏頃から南アフリカの大地を走り出す予定です。さらに多くの図書館車を届けられるよう、これからもプロジェクトを継続していきます！



## ミュージカル『図書館で会いましょう』(2018年1月5日・6日)

“図書館で会いましょう”プロジェクトから生まれたミュージカル公演が、佐賀市の浪漫座で行われました。作品集『図書館で会いましょう』収録曲の他、たくさんのオリジナルナンバーが加わった豪華なラインナップ。小学生から高校生を中心としたメンバーが、のびやかな歌と華麗なダンスで熱く演じていました。

出演：ティーンズミュージカルSAGA 企画・原作・作曲：弓削田健介 脚本：弓削田ひかり & 健介 演出：栗原誠治 協力：佐賀市立図書館

### どんなミュージカル？

とある市立図書館を舞台に繰り上げられるストーリー。高校で図書部の部長をしている「アキ」と副部長の「文子」、そして個性的な下級生「ずっこけ3人組」など、バラエティに富んだキャラクターたちが登場。危機に直面した地域の図書館を、皆で力を合わせて守っていきます。

物語の中では「いじめ」の問題や「自分に自信がない」といった悩みにも向き合います。心の葛藤を抱える子どもたちが、図書館でのさまざまな出会いや出来事を通して、互いを思いやり成長していく姿を、色彩豊かに描いていきます。



図書部の部長「アキ」



愉快でチャームな「ずっこけ3人組」



みんな本が大好き！



息の合った見事なダンス



会場中が感動に包まれた

今後も  
“図書館で会いましょう”  
プロジェクトがさまざまな形で  
展開されます。どうぞ  
ご期待ください。



# Oh My ゴット先生 #1 作：魚師(ぶりちゃん)

先生にだって  
苦手科目があります



はじめまして！



タイトルロゴ：石野春加 (DAI-ART PLANNING)